あなたとともに
地域医療に輝く未来を——

Araki Neurosurgical Hospital

リハビリテーション部
職員募集案内

医療法人 光臨会
荒木脳神経外科病院

「地域とともに、明日のために」

荒木脳神経外科病院　理念

脳神経外科としての専門性を軸に
幅広い診療体制で地域医療に貢献します。

脳神経外科領域における専門病院として高度な診断・治療（救急医療を含む）を提供しつつ、
地域に密着し信頼される病院であるために、診療科にこだわらず、まず患者さんを診察し、
他の医療機関との連携も図りながら適切な医療の提供に寄与します。

急性期医療の中核病院として、
高機能で質の高いチーム医療を行います。

脳卒中の超急性期、急性期医療を中心に地域の中核病院として、
皆様を中心にそれぞれの専門スタッフが緊密な多職種連携でチーム医療に取り組み、
高機能で質の高い医療を提供し、「患者さんから選ばれるNo.1病院」を目指します。

リハビリテーション部　理念

急性期から回復期、維持期と一貫したリハビリテーションを実施し、
地域の医療福祉に貢献します。
高いリハビリテーションの専門性を活かし、チーム医療に取り組みます。

法人名	医療法人　光臨会
病院名	荒木脳神経外科病院
所在地	〒733-0821　広島市西区庚午北二丁目8-7 TEL.082(272)1114
理事長	荒木　攻（あらき　おさむ）
院長	荒木　勇人（あらき　はやと）
診療科目	脳神経外科・脳血管内治療科・脳神経内科 循環器内科・消化器内科・外科 形成外科・リハビリテーション科
許可病床数	110床（開放病床5床含む） SCU　3床 一般病棟　65床 回復期リハビリテーション病棟　42床
看護配置	SCU　3対1 一般病棟　7対1 回復期リハビリテーション病棟　13対1

荒木脳神経外科病院
リハビリテーション部長 作業療法士
今田 直樹

荒木脳神経外科病院は優れた診断機器と高い技術、
そしてきめ細やかな医療・看護・リハビリテーションで、患者さんに多くの満足を
提供しており、回復期リハビリテーションにおいては在宅復帰率約80％という
高い数字を誇っています。病院理念に掲げている高機能で質の高いチーム医療の提供を、
患者さん中心に医師、看護師・リハビリテーション療法士・ソーシャルワーカー等の
コ・メディカルスタッフが有機的に連携し、常に専門性を十分に発揮する医療提供をめざしています。
そのためにリハビリテーション部では、各療法士5～6名を1つのチームとし活動する体制を整備し、
新入職員へのOJTもこのチーム体制で実施していく等の教育プログラムの充実を図っています。
当院では、急性期から回復期、生活期までの脳神経外科領域を中心とした
一貫したリハビリテーションに加え、市町や地域住民と共同していく地域リハビリテーション活動にも
取り組めます。一人ひとりが自分のめざすキャリアをしっかりとイメージし、
そして確かな専門知識・技術を身につけ、豊かな人間性と優しい心を持った
リハビリテーション療法士になっていただくことを支援します。

スタッフの構成

理学療法士38名、作業療法士21名、
言語聴覚士17名、臨床心理士2名、
事務員2名の総勢80名（平成29年5月1日時点）が
所属しています。
発症直後から急性期、回復期、生活期に渡って
リハビリテーションを行っています。
また、肺炎等により
安静状態にあった患者さんの
リハビリテーションも積極的に行っています。

リハビリスタッフの質向上に向けた取り組み

リハビリテーションの知識と
技術を習得するために、
研修会への参加や学会発表を奨励し、
スタッフ全員での勉強会も毎週行っています。
また、新人教育や経験の少ないスタッフの
教育にも力を入れており、
患者さんの生活スタイルや希望を考慮した
リハビリテーションの提供に向けて、
日々研鑽しています。

地域への貢献と活動

当院は平成25年4月に広島県から
『広島二次保健医療圏域における
地域リハビリテーション広域支援センター』
として指定を受け、積極的に活動しております。
例えば、地域の方々からのリハビリテーションや
介護に関わる相談への対応、
区民まつりや町内会などの行事で
医療・介護の相談や
運動指導等を行っています。

リハビリテーションの紹介

脳梗塞、脳出血および硬膜下血腫によって、手足や顔に麻痺が出たり、
注意が散漫になったり、食事がとれなくなることがあります。
日常生活になんらかの不自由を生じた方に、発症直後から急性期、
回復期、生活期に渡ってリハビリテーションを行っています。

理学療法士長
岩田 学

理学療法
Physical Therapy：PT

発症直後から関節をほぐす運動、筋力をつける運動、起き上がる・立つ・歩く練習を、その方の身体状況に応じて段階的に行います。「立つ」「歩く」練習では、『長下肢装具（足の付け根から足先まである装具）』を使用した歩行練習を積極的に行っています。杖や車椅子、装具が必要な方には、適したサイズやタイプを選択し、移動手段の獲得を目指します。
退院後の生活に向けては、①退院前に自宅に訪問し、生活環境を整える（例：手すりを必要な場所に取り付ける）、②安全に外出できるよう、患者さんやご家族と一緒に外出練習することを行っています。

階段の練習
麻痺や身体状況、自宅周囲の環境を視野に入れて、退院後も外出機会が確保できるよう練習していきます。

歩行練習の様子
身体の麻痺が重い場合には、長下肢装具を使用し、麻痺のある足をサポートしながら練習を行います。

楽しく働ける場所です

作業療法士長
鈴川 剛弘

作業療法
Occupational therapy：OT

「食事」「入浴」のような、日常生活を送る上で必要な身体の機能を獲得することを支援します。作業療法は「その人らしい生活の実現」を目標にしています。脳卒中を発症すると、脳の一部に損傷を受けた結果、手足の麻痺や、「記憶力」「注意力」「物事を計画立てて行う力」の低下が出現します。そのような場合には、「ご飯を食べる練習」「服を着替える練習」など日常生活に必要な動作の獲得を目標に関わっていきます。そして、退院後の生活を見据えて、「ご飯を作る練習」、「就労に向けた支援」など社会復帰に向けた関わりも行なっていきます。また、趣味や生きがいを持つことで、心・身体は健康となり、生活を豊かにすると言われています。そのため、作業療法の一環として、季節に合わせた草花や野菜の園芸・作品づくりなども行っています。

麻痺がある患者さんの練習場面
入院前は無意識にできていた動作も、難しくなります。静かな場所で、集中し、根気強く練習していきます。

季節に合わせた作品づくり
塗り絵、ちぎり絵などの作業を用いながら、手、指先の練習だけでなく季節感も取り入れて活動しています。

言語聴覚療法
Speech Language and Hearing therapy：ST

伝えたいのに上手く話せない、話を聞いても理解できない症状の「失語症」、唇や舌に麻痺があって呂律が回らない「構音障害」などのコミュニケーションの問題や、ご飯を食べる時にむせてしまうなど飲み込みの問題（嚥下障害）が生じることがあります。患者さんが自分らしく生活できるよう、コミュニケーションの練習を行ったり、食事の形態や食べ方を工夫する支援を行っています。
また、退院後の生活を見据えて、自分が思ったことを言葉で表現し、家族や友人、職場のスタッフとの会話に反応しながら思いを伝えたり、食べることへの楽しみを感じながら食事をとることが出来るよう支援を行っています。

言語聴覚士長
水戸 裕香

口の体操の様子
個室の静かな環境で集中して行います。

ニューロリハビリテーション
Neuro Rehabilitation

一般的には神経疾患（脳・脊髄・末梢神経などの病気）に対するリハビリテーションを指します。最近では、脳梗塞により障害された細胞を再生させる研究が進んでいます。このような再生医療など、研究によって明らかになった脳化学をリハビリテーション医療に応用した評価・治療方法がニューロリハビリテーションと言われています。
当院では『ロボットスーツHAL単関節タイプ』をリハビリテーションに利用しています。HAL単関節タイプは、人が動こうとする時の電気信号をセンサーで読み取り、動きのサポートを行います。それにより運動学習を促し、脳卒中後に片麻痺を呈した患者さんの上肢や下肢機能の向上を測り、日常生活動作が少しでも向上する方法の一つとして使用しています。

ひじの屈伸運動
HALが上腕二頭筋・上腕三頭筋の収縮を補助し、スムーズなひじの屈伸運動が可能となります。

下肢に装着した場合
HALが大腿二頭筋・ハムストリングスの筋収縮を補助し、スムーズな膝の屈伸運動が可能となります。

リハビリテーションの流れ

当院では、発症直後から行われる急性期リハビリテーション、急性期治療を経て積極的にリハビリテーションに取り組む回復期リハビリテーション、そして退院後の生活の中で行う生活期リハビリテーション、と一貫したリハビリテーションを提供しています。
西区唯一の脳神経外科専門病院として地域の医療福祉に貢献するべく、
高いリハビリテーションの専門性を活かしたチーム医療の実践に取り組んでいます。

急性期

この時期は、ベッドで寝ている時間をできるだけ短くし、「廃用症候群（安静臥床が続くことによって起こる様々な心身機能の低下や合併症）」を予防することが重要です。
病状に配慮しながら、発症早期から
◎起立、立位、歩行練習のような動作練習
◎「食事」「トイレ」「着替え」のような日常生活に必要な動作練習
◎食べる練習、話す練習
を行います。

脳卒中後に集中治療を行う「脳卒中ケアユニット（SCU：Stroke Care Unit）」および「一般病棟」では安全にリハビリテーションを進めるために、チーム内での情報共有も重要です。

SCU

発症 → SCU（3床）／一般病棟（68床） → 自宅や入院前の生活場所へ退院／回復期リハビリ病棟（42床）

患者さんとご家族をサポートするスタッフ
医師・看護師・PT・OT・ST・臨床心理士
栄養士・薬剤師・ソーシャルワーカー・看護補助者

回復期

点滴や手術での急性期治療が終了した後に、より積極的なリハビリテーションが必要な患者さんを対象としています。その為、退院後に一緒に生活されるご家族にも練習場面の見学や介助の練習を行ってもらい、自宅で楽しく暮らせるような関わり方の習得に向けたサポートも行っています。リハビリテーションの場所は病棟、リハビリ室だけではなく、退院後の生活スタイルや生活場所を見据えて、公共交通機関を利用した外出練習、1泊2日の外泊練習、車の乗り降りの練習など幅が広がってきます。また、自宅へ訪問し生活環境を整えることも行いますので、早い段階から間取りや段差などの自宅環境も確認していきます。自宅訪問の際には、退院後に担当となる介護支援専門員や住宅改修業者の方々も参加するため、患者さんとご家族をサポートするスタッフも増えていきます。

12月に開催するクリスマス会
毎月、四季折々のレクリエーション活動をとり入れています。カープのユニフォームに身を包んだリハスタッフが、踊りながら応援歌を歌う様子は広島県ならではの光景でしょうか。

病棟リハビリの様子
集団で、昼食前は看護師、夕食の前にはリハビリスタッフが口の体操、頭の体操、筋力・体力をつける運動を行い、少しでも早く力が付くよう活動しています。

生活期（訪問リハビリ）

自宅を訪問し、身の回りの動作練習や、自宅環境・介護力を考慮したアドバイスを行いながら、趣味や家事などの生きがいや役割をみつけ、地域社会でより充実した生活が送れるようサポートを行います。
具体的には、
①歩行・トイレ・入浴・更衣・食事・家事などの動作練習と指導
②外出方法の提案や公共交通機関を利用した外出練習など外出に向けた支援
③寝たきりや閉じこもりを防ぐ支援や精神・心理面の支援
④家庭で取り組める自主トレーニングの指導、生活環境に関するアドバイス、ご家族への介助指導
など多種多様です。主治医や介護支援専門員のように地域社会で生活を支援している専門職と連携し、ニーズに合わせたリハビリテーション計画の立案と実施を、明るく元気なスタッフがお手伝いしています。

訪問リハビリの様子
洗濯物を干す時に便利な補助具、身体機能向上に応じたお風呂での動作確認と練習、動き方の指導を行います。ご本人だけではなく、ご家族へも伝達していきます。

こころの専門家としての役割を担っています

臨床心理士
西川 大志

心理的サポート
Psychological Support

臨床心理士は、医療チームの一員として急性期・回復期どちらにも関わり、患者さんとご家族に心理的なサポート（カウンセリング、心理教育等）を提供しています。ある日突然病に襲われることで、こころに大きなショックを受け、様々な面で不安を感じます。自分の思いを周りに話すことが出来ず、一人で抱えてしまうことも少なくありません。一方で、ご家族も本人も同様に、大きなストレスを感じ、家族だからこそ、お互いの事を思うが故に話しにくいこともあります。急性期では、本人も含めたご家族皆様の混乱した気持ちの整理をお手伝いし、こころのサポートをしていきます。
また、治療が進む過程のなかで、ストレスが積み重なっていき、心身ともに疲れて意欲が減退したり、不眠や倦怠感を生じることがあります。情緒面では不安を感じたり、イライラしたりと浮き沈みが激しくなることもあります。さらに、治療を受ける意欲が低下したり、他の人に強く当たったりするなど行動面の問題もよくみられます。これらの症状は、病気による「心理的なストレス反応」です。回復期では、このようなストレス反応とうまく付き合って行くことを支援し、安心して治療に取り組めるよう患者さんのこころの健康をサポートします。

教育プログラム

回復期リハビリテーション病棟の在宅復帰率──約80%

あなたのキャリアが患者さんの笑顔にかわる。

スタッフが自分の能力を積極的に高め、
発展させることができるように
さまざまな教育体制を整えています。

最初は業務を覚えることも患者さんのプログラムを立案することも大変です。優しい先輩、厳しい先輩に揉まれながら、一緒に歩んでいきましょう。

言語聴覚士長
原田 真知子

教育体制

1年目

プリセプター制度※を導入しており、1年間は3〜4年目の先輩がマンツーマンで指導します。知識や技術指導は、5年目以上の先輩がリハビリ場面を通して指導し、成長速度に応じてリハビリ場面の見守りの量を調整していきます。見守りとは、新人療法士が実際にリハビリしている場面を見学し、適切な声かけや評価の仕方、プログラムの立案等の指導を行なうことを指しています。

※プリセプター制度
先輩療法士が新人療法士をマンツーマンで教育・指導する制度。
その他：当院全体のシステムが理解できるようオリエンテーションがあります。

中途採用者

当院での業務を実務の中で覚え、できるだけ早く新しい環境に慣れることができるよう、同じ経験年数の療法士がサポートします。

現職者教育（入職1〜4年目）

経験年数別に講義とワークショップを開催します。各年代が置かれている状況を理解し、新たな気持ちで次年度を迎えられるよう支援することが目的です。ワークショップでは、経験年数別で異なるテーマや問題が提示され、チームでディスカッションし、解決策を考えていきます。明日からの臨床にすぐに役立つ内容で組み立てています。

リーダー育成（入職5年目〜）

中堅的な立場になる時期であり、リーダー的な役割が求められます。自分の立場や役割を見直し、やるべき仕事を自ら見出せるよう講義とワークショップを行います。

勉強会
先輩療法士から後輩へ講義や伝達をしている場面です。勤務時間外の場合には自己研鑽の時間とし、参加は自由です。

全体の教育体制

学会、研修会、講習会への参加にかかる費用を年に2回までサポートします。また参加後は、講習会を開催します。得られた知識や技術をスタッフ全員で共有し、レベルアップを図ることが目的です。緊張しますが、プレゼンテーション能力向上にもつながります。

学会発表の支援体制

発表したい意欲のあるスタッフには、抄録やスライド作成などのサポートを積極的に行っています。

法人全体での教育体制

接遇研修や感染対策に関する勉強会が年に数回開催されます。法人全体で行うことで、医療従事者として必要な知識の吸収や共有を図り、より良い医療を提供できることを目指しています。

高いレベルの専門知識・技術で活躍の場を広げる先輩療法士たち

専門・認定療法士

時代と地域のニーズに応え最善のリハビリテーションを提供していくために、
療法士は自らの能力を積極的に開発し、発展させる必要があります。
そのために、必要な教育環境を整え、対象となる人々を尊重し、
療法士を必要とするあらゆる場面で活躍できる人材育成を目指しています。

認定訪問療法士（理学療法士）
佐藤 優子

認定訪問療法士とは、専門的な知識・技術・接遇・マネジメント力等において一定の質を備え、質の高い訪問リハビリテーションを提供するために設けられた認定資格です。訪問リハビリテーションを必要とする方々が自分らしく暮らすために、それぞれの地域に出向いて、リハビリテーションの立場から支援すると共に、訪問スタッフの質の向上を図り、地域・社会貢献へ繋がるよう努めております。

回復期セラピストマネジャー（理学療法士）
藏田 裕子

回復期セラピストマネジャーとは、専門的な知識・技術・態度を備え、フロアマネジメントができるセラピストを育成し、回復期リハ病棟の質向上に繋がるよう、設けられた資格です。当院においても資格支援制度を利用し4人が取得しています。当院では、人材育成やチームマネジメント、人的・物的管理等を担っており、患者さんやご家族に質の高いリハビリテーションサービスを提供できるよう努めています。

資格取得支援制度

当院では各資格の取得に向けた支援を行っています。リハビリテーション部では本支援制度を利用した多くの療法士が、質の高いリハビリテーションサービスを提供できる病棟作りに取り組んでいます。

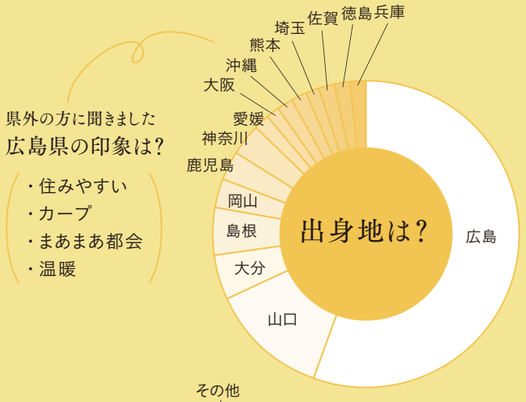
■資格取得の一例

	PT	OT	ST	合計
介護支援専門員	1	3		4
回復期セラピストマネジャー	2	1	1	4
3学会合同呼吸療法認定士	6	1		7
認定訪問療法士	1			1

※平成29年5月1日時点

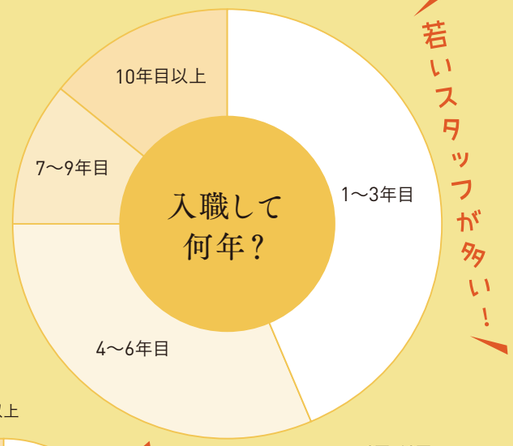
先輩たちに聞いてみました！

荒木脳神経外科病院
リハビリテーション部アンケート

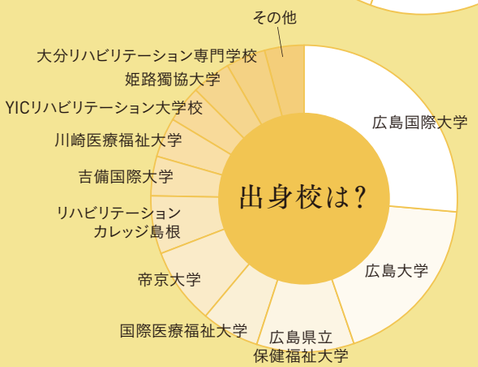


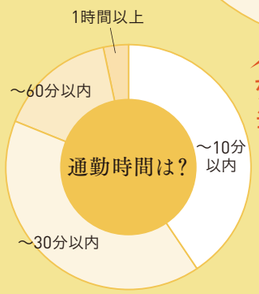
県外の方に聞きました
広島県の印象は？

- 住みやすい
- カープ
- まあまあ都会
- 温暖

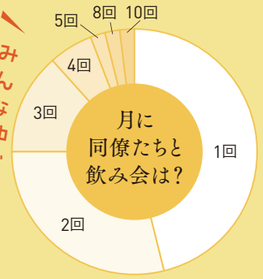


若いスタッフが多い！

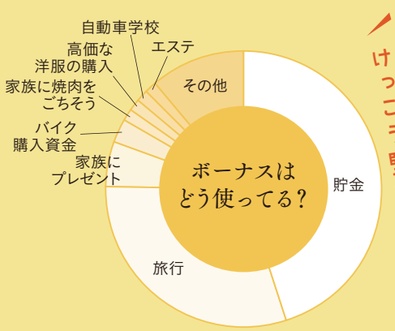




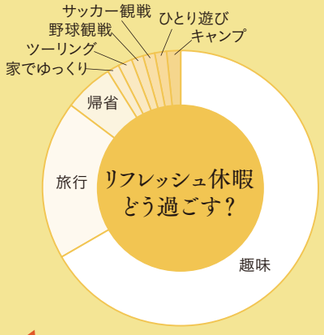
交通の便がいい！

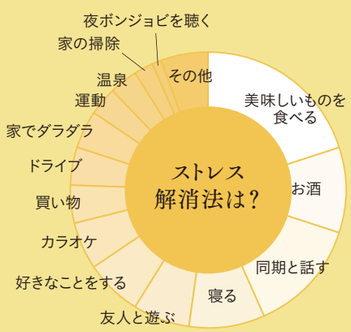


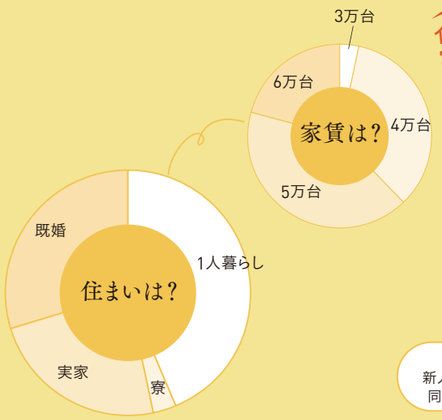
みんな仲がいい！



けっこう堅実派!?







住宅手当もあるよ！

学生のみなさんに一言

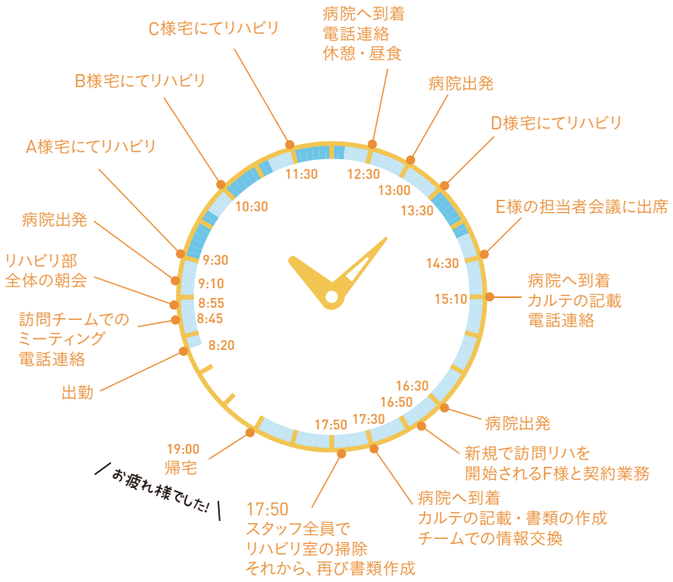
- 学生の時には行けなかった場所へ行けます
- 働くとギャップに戸惑うことが多いと思います
- 1食360円のお昼ごはんは助かります
- どこに行っても仕事は大変です。先輩は良い方ばかりの職場です。
- 今のうちにしっかり遊んでください
- 働くって楽しいよ
- しんどいことも多いけど経験はいっぱいできます
- 仕事以外の楽しみや友人を作るといいと思います
- 優しい先輩が多い
新人教育がしっかりしている
同期が多くて相談しやすい
- 1週間の長期休暇があるので
若い間に色んな所へ行ってみてください
- やりがいのある病院です

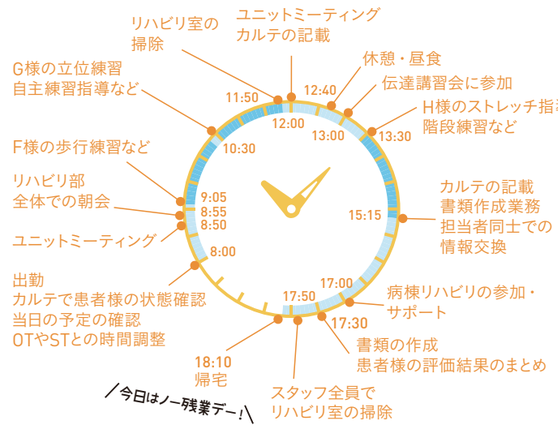
先輩たちの一日

リハビリテーション部で働く先輩ってこんな人たち。充実した毎日を送っています！

［訪問リハビリ担当］
7年目療法士 石井 孝幸

毎朝、朝会前に訪問スタッフ間でミーティングを行い各々のスケジュールや確認事項を共有しています。この日は午前3件、午後1件訪問リハビリに伺いました。事故防止のため20分程度時間を設け、余裕をもって移動しています。また、空いた時間を利用して介護支援専門員の方に電話をして、情報共有に努めています。
担当者会議や新規利用者様の契約に伺ったのでスケジュールはタイトでしたが、訪問スタッフに手伝ってもらえ、チームワークも抜群です。





2年目療法士 佐々木 彩圭

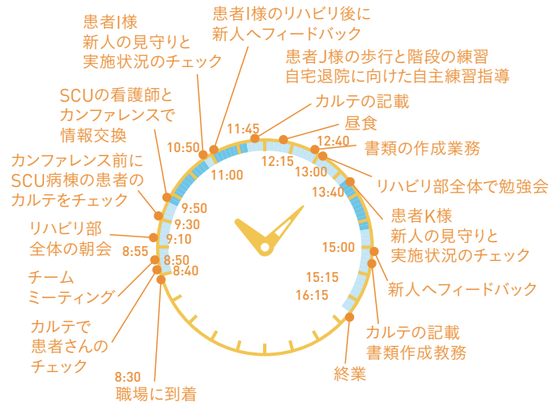
ノー残業デー（1回／週）の1日の流れ

毎週水曜日はノー残業デーです。1日の単位数や業務内容は他の日と大きく変わりません。しかしこの日を利用して同期や先輩方とご飯へ行く予定を入れる事が多いため、メリハリを付けて仕事に取り組むようにしています。

ママさん療法士（8年目）濱田 千恵子

時間短縮勤務（6時間）の場合の1日の流れ

現在、8名の療法士が子育てをしながら時間短縮勤務や常勤の勤務形態で仕事をしています。子どもの体調不良による急な呼び出しや休みの場合には、フォローし合う体制が整っています。また、参観日や通院等にも時間有給という制度を利用することが可能です。周りのママさん療法士と子育ての話ができるのも働きやすい環境の1つです。



勤務体制・福利厚生

ワークライフバランスにも配慮した職場環境を整えています。

勤務時間　9：00～18：00

給　　与　初任給220,900円

賞与　年2回（3.5ヶ月程度）

諸手当
正月手当 5,000円、育児手当 20,000円
住宅手当、通勤手当
扶養・家族手当、役職手当 ほか

休暇
年間休日 111日
（4週8休＋年7日間のリフレッシュ休暇）
年次有給休暇
特別休暇、産休・育児休暇、介護休暇
※年次有給休暇を利用した7日程度の連続休暇も年1回取得可能

福利厚生
健康保険、厚生年金、雇用保険
労災保険、厚生年金基金、財形貯蓄制度
退職金制度（最低勤務年数：3年）
制服貸与
保育施設有
（「アラキッズルーム」保育料は月6,000円。
給食と手作りおやつ代込み）
独身寮（入寮できず借家住まいの方には住宅手当あり）
山小屋・プレジャーボート利用可能
同好会活動
（ソフトボール・山登り・軽音楽・フットサル）
職員旅行、カープ観戦

子育て支援（法人内保育園「アラキッズルーム」）

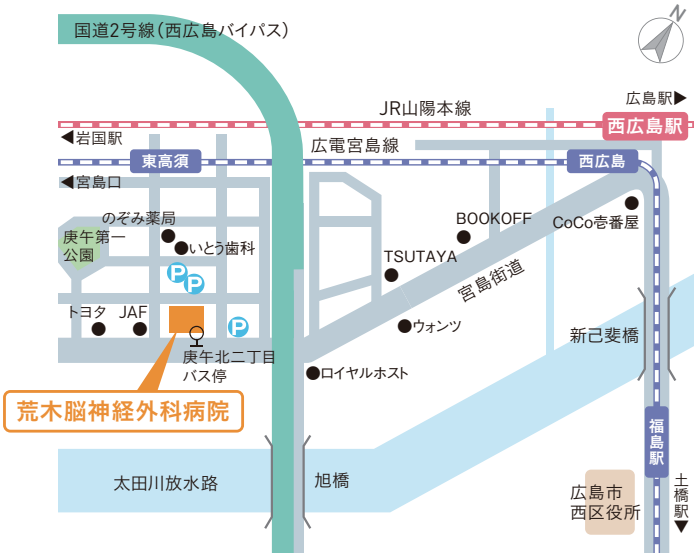
出産後も家庭と仕事の両立ができるよう365日24時間対応可能な保育所を設置しています。保育士による手遊びや絵本の読み聞かせ、リトミック活動などしっかりした「保育」を行っています。月額6,000円で、一時預かりは食事を入れて1,000円です。

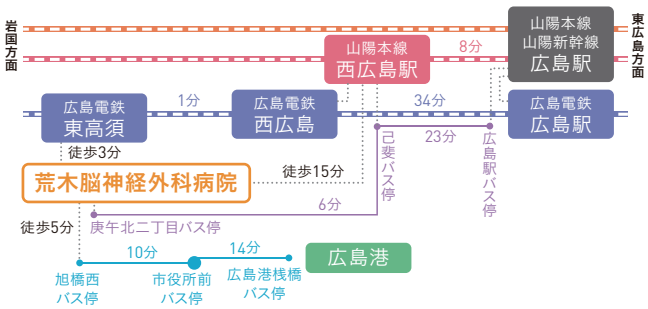
社員寮完備

病院の近くに独身寮があります。トイレ・風呂・冷蔵庫・ベッド・洗濯機を完備しています。入寮できず借家住まいの方には住宅手当を支給します。

レクリエーション

社員旅行や野球観戦、ビアガーデンなど季節に合わせ活発に行っています。職員・部門間のコミュニケーションに役立っています。





医療法人 光臨会
荒木脳神経外科病院
〒733-0821 広島県広島市西区庚午北二丁目8-7
求人に関するお問い合わせ先　TEL.082-272-1114